



摂食嚥下機能療法って何？

「摂食嚥下」と聞くと「食べる」という言葉がイメージできますが、食べるというのが噛むことだけだと思っている方が多いのではないのでしょうか？食べるというのは「食べ物を認知して、口に取り込み、咀嚼して飲み込む」過程のことで、その過程の中に障害がある状態を「摂食嚥下機能障害」といい、その障害の改善を目的に訓練等を行うことを「摂食嚥下機能療法」といいます。

食事の時、こんなことに困っていませんか？

お子様や、ご家族、施設の利用者さんの食事に関して困っていることで当てはまることはないでしょうか？当てはまる項目があり、気になることがあればぜひ一度当センターの摂食嚥下機能療法を受けてみてください！

乳児期

幼児期



食形態・栄養面が心配
離乳食がなかなか進まない
コップやストローがうまく使えない

学童期

青年期



食べるペースが速い
食具がうまく使えない
口にたくさんつめ込んでしまう

成人期

老年期



丸のみしている
食事や水分摂取時にむせる

当センターにおける摂食嚥下機能療法

当センターの摂食嚥下機能療法は歯科医師、歯科衛生士だけでなく、言語聴覚士、管理栄養士も加わりチーム医療で行っています。

また、以前摂食嚥下指導を受けたことのある6歳・12歳・18歳の方を対象に行う

「**摂食定期健診**」では、長期的に患者さんの食事支援を行うことができます。その他にも、1度診て欲しい方のために少ない回数でアドバイスを行う「**摂食ワンポイントアドバイス**」など、センター独自の取り組みも実施しています。

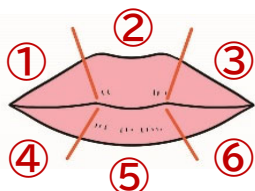


どんなことを行っているの？

摂食嚥下機能療法の指導は摂食嚥下機能障害の診断と患者さんの状況に合わせて栄養指導や適切な訓練を実施します。実際に行っている訓練の一部をご紹介します。

唇を閉じる力が弱い方に行う訓練（口唇訓練）

唇の周りの筋肉（口輪筋）（図①）に刺激を与えます。上下の唇を3分割（小児は2分割）し、指の腹を使ってマッサージ（①～④は5秒、⑤は20～30回）を行います。



図①



① つまむ ② 膨らませる ③ 縮める ④ 伸ばす ⑤ たたく

唇を使って食べ物を取り込む訓練（捕食訓練）

下唇に平スプーンをのせ、上唇が閉じるのを待ちます。上唇が下りるのを確認したらスプーンを真っすぐに引き抜きます（①～④）。



①下唇にのせる ②閉じるのを待つ ③閉じるのを確認 ④まっすぐ引き抜く

栄養相談のご案内



偏食や貧血があるので栄養がちゃんと摂れているのか気になる



お口の機能に合わせた食形態が分からない



こんなお悩みを抱えている人はいませんか？当センターでは、食事や栄養に関するお悩みについて、担当医の指示のもと、管理栄養士が個別でお話を伺う栄養相談を実施しています。相談をご希望の方は、スタッフまでお声掛けください(事前予約制)。

予約から初診までの流れ・持ち物

歯科初診

医療面接、口腔内診査を行います。

摂食初診

食事場면을診ながら、診断、評価、アドバイスを行います。
※ 摂食嚥下外来の診療は保険適用になります。

摂食外来当日に食べてくれるか不安…という方は家での食事場면을撮影した動画を持参しても構いません。



- 摂食外来日：月・水・金曜日
- 診療時間：午前9時15分～12時、午後1時～4時30分
- 持ち物：①**食材・飲み物**

普段食べているものや、食べ方が気になる食材・飲み物

②食具

普段使用しているスプーン・フォーク・箸・コップなど

③歯科初診時にお渡しするアンケート

